

# 前橋の農畜産物がいっぱい もっとみんなでたくさん食べましょう

## 安心安全な 産地で選び

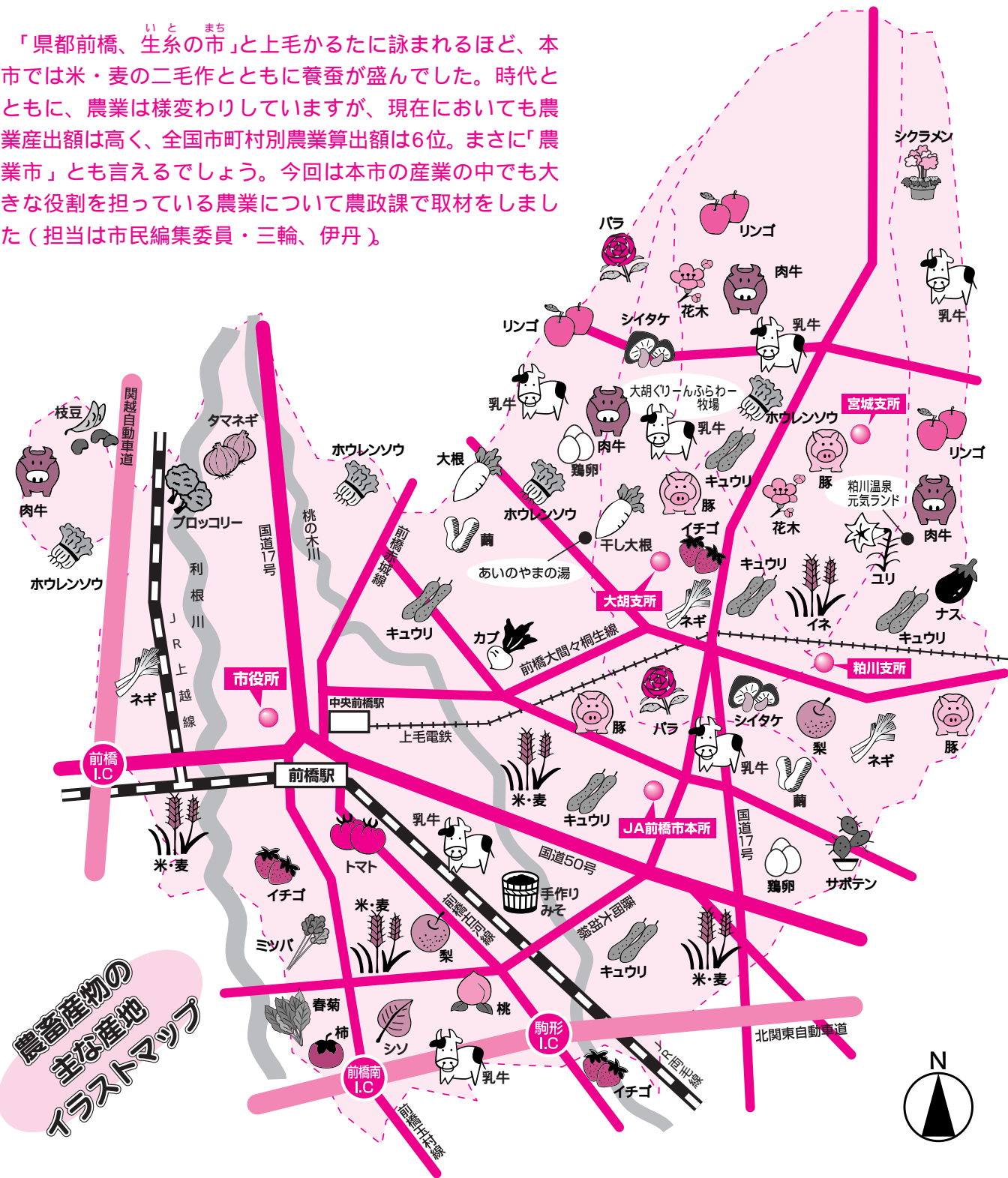


新鮮な地元野菜を買い求める人たち(11月12日にJA前橋市本所で開かれた農業まつりで)

「県都前橋、生糸の市」と上毛かるたに詠まれるほど、本市では米・麦の二毛作とともに養蚕が盛んでした。時代とともに、農業は様変わりしていますが、現在においても農業産出額は高く、全国市町村別農業算出額は6位。まさに「農業市」とも言えるでしょう。今回は本市の産業の中でも大きな役割を担っている農業について農政課で取材をしました(担当は市民編集委員・三輪、伊丹)。

### 全国でも有数の「農業市」です

赤城山の南ろくには古くから桑畑が広がり、本市でも養蚕が盛んでした。かつては六千戸もの養蚕農家がありましたが、時代とともに養蚕をやめる人が多



### 進めています 特色づくり

以前から本市の農業は、一年のうち米作と麦作とを収穫する一毛作を行ってきました。また、荒砥、芳賀、桂貫、大胡、宮城、粕川地区では、豚、乳牛、肉牛などの畜産も盛ん。本市の農業で畜産の占める割合は高く、市町村別の畜産農業算出額でも全国三位を誇っています。また、桑畑の跡地対策で野菜生産の育成を図り、都市化の進展に対応した近代的農業を推進してきました。平成八年度にはキウウリが県のブランド産地に

く、現在は百戸までに減少しました。また、平成十一年の農家世帯数は七千六百戸、耕地面積は六千六百にもおよびますが、両方とも年々減少しています。本市では、昭和三十年代以降、土地基盤の整備や農業施策の近代化が進み、畜産・施設園芸などの専業経営や複合経営の規模拡大が進められてきました。また、農業生産基盤の整備として、土地改良事業を行い九十五%が完了しました。

### 安全安心の地元産 もっと食べよう

消費者の「食の安全、安心」への関心はますます高まっています。本市の農業生産者は良質なたい肥などの利用による健康な土作り、や減農薬・減化学肥料栽培の取り組みによって、「安全、安心な農業」に努めています。また、JA前橋市では農家に対して栽培管理記録の記録を依頼し、土壌、施肥の状況、種子消毒や除草剤の散布使用量などについて、詳しく調査しているそうです。高品質で、安全、安心な本市産の農産物をもっとたくさん食べましょう。富田町にあるJA前橋市本所の敷地内「ゆうあい館」をはじめ、荻窪町の「あいのやまの湯」に隣接している「味菜」、大胡ぐりんふらわー牧場

指定され、それ以外にも梅、ニラ、春菊、ブロッコリーなども県内産地として高い評価を受けています。また、トマトやミョウガ、ミツバなどの水耕栽培に力を入れている農家も。さらには、「大島梨」など古くからその名が広く知られている農産物もあります。主な産地は6の地図のとおり。さまざまな農産物が収穫されていることが分かります。

### 前橋うどんを開発 お土産などにも

県内で改良された新品種である「きぬの波」という小麦などを使い、JA前橋市では「前橋うどん」を開発しました。本市産小麦の風味が生きています。もちっとするつるつるしたのど越しです。ぜひ、「ご賞味ください」。また、贈答品やお土産にも最適です。問い合わせはJA前橋市本所 261 3006へ。



ぜひ、ご賞味を